

一年	国語	Gアップシート	読む6
----	----	---------	-----

組	番・氏名
---	------

## ★自分のテーマにそって説明文を読み、レポートにまとめよう

◇清水さんのクラスでは、自分が決めたテーマの説明文を読み、レポートをまとめる課題が出されました。そこで清水さんは「スポーツの魅力」をテーマに次の説明文を読みました。



皆さんは新聞のスポーツ欄を読んだことはあるだろうか。野球、サッカー、相撲、テニス……。そこには様々なスポーツについての記事が掲載されている。中でも大きなスペースを割いて扱われているのはプロ野球の結果である。前の日の試合の勝敗、選手の個人記録、試合の様子を伝える文章。あるチームのある選手が劇的なホームランを打った、というような記事は誰でも目にすることがあるだろう。そういった記事の中に勝敗表というものがある。各チームのこれまでの勝ち負けの数の表なのだが、その中には各チームの打率、本塁打数、盗塁等、様々なデータも合わせて記されており、読者はそれを見てひいきのチームの様子を知るわけである。これらのデータは野球というスポーツが始まって以来の長い間、チームの状況や選手個々の能力を的確に分析しているものと信じられてきた。しかし近年、これらのデータと実際の試合の結果には大きな関連がない、という調査結果が示され、今までのデータに替わるものとしてセイバーメトリクスという考え方が表れてきた。

セイバーメトリクスは一九七〇年代後半に、アメリカのビル・ジェームズが発行した『野球抄』という本によって始まった。そこで提示されたのは「ヒットの数と得点の数には大きな関連性がない」「ホームラン以外のヒットは投手の責任ではない」等、今までの野球の見方を大きく転換するものだった。そのため、この本はなかなか人々に受け入れられなかった。しかし、年を重ねることに読者が増えていき、今では野球のデータ分析をする際にはなくてはならないものとなっている。そのセイバーメトリクスの考えの一つに『ピタゴラス勝率』というものがある。

『ピタゴラス勝率』とは、チームの総得点と総失点から期待される勝率を導き出したもので、「総得点の2乗÷(総得点の2乗+総失点の2乗)」で決定する。なぜ『ピタゴラス勝率』というのかというと、計算式が皆さんも知っている『ピタゴラスの定理』に似ているからだ。野球はたくさん得点を取り、失点を少なく抑えた方が勝つスポーツなので、得失点差のプラスが大きければ勝率も上がっていく。そこで、得点と失点だけをデータとして、このチームならこれだけの勝率が期待できる、というのを数値化したものが『ピタゴラス勝率』なのである。しかし実際は、一試合だけたくさん得点

をあげて大差で勝ち、他の試合はあまり得点をとれずに僅差で負けることもある。その場合、得失点差はプラスでも試合は負けが多くなるため、『ピタゴラス勝率』が実際の勝率と一致しなくなる。下の表は二〇一〇年度のプロ野球セリーグ各チームの勝率とピタゴラス勝率である。優勝したのは中日だが、ピタゴラス勝率は二位や三位のチームに比べて高くない。このデータの比較により、「中日は優勝したが、戦力的には阪神や巨人の方が上だった」という考察を導き出すことができる。こうした比較の仕方は、『ピタゴラス勝率』が考案されるまでは、積極的には行われてこなかったことだ。

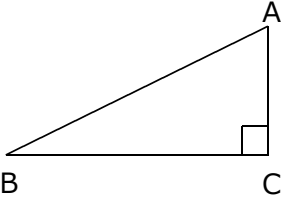
現在『ピタゴラス勝率』は、チーム力を分析すると同時に、監督の試合運びの巧拙を評価するデータとしても用いられている。効率的に勝ちをあげられる監督ほど優秀な監督、非効率な試合で負けが多い監督は優秀ではない、と判断できるわけだ。こういった考え方は、ほんのこの十数年ほどの間に広まったもので、野球というスポーツを楽しむ新しい方法を提案し、野球の魅力をさらに広げてくれた。

みなさんの取り組んでいるスポーツに、見落とされているデータはないだろうか。新しい視点を持つて見ると、隠された楽しみ方がまだあるかもしれない。

(高橋智子「スポーツ再発見」より)

2010年 セリーグ 勝率とピタゴラス勝率

順位	チーム	勝率	ピタゴラス勝率	総得点	総失点
1	中日	.560	.517	539	521
2	阪神	.553	.572	740	640
3	巨人	.552	.570	711	617
4	ヤクルト	.514	.496	617	621
5	広島	.408	.395	596	737
6	横浜	.336	.330	521	743



$AC^2 + BC^2 = AB^2$

◇ピタゴラスの定理

直角三角形の三辺の長さの関係を表す等式。三平方の定理とも言い、「直角三角形の斜辺の二乗は、直角をはさむ二辺の二乗の和に等しい」事が成立する定理である。

一年
国語
Gアップシート
読む6

組
番・氏名

## ★自分のテーマにそって説明文を読み、レポートにまとめよう

問一 清水さんは「巧拙」の意味がわからず辞書で調べたところ「たくみなことと、つたないこと。じょうずとへた。」とあった。これを参考に、本文中で巧と拙を対照的に表現している言葉をそれぞれ三字で抜き出しなさい。

巧
-----
-----
拙
-----
-----

【文脈に即して語句の意味を的確にとらえる】

問二 清水さんは本文中の表が、本文に対してどのような役割を果たしているのか考えました。その答えとして最も適当なものをア～オから一つ選びなさい。

- ア 本文の内容を補足し、本文で言い足りない事を補う役割
- イ 本文の内容を簡単に示し、要点を分かりやすくする役割
- ウ 本文の内容の根拠を示し、論理に説得力を持たせる役割
- エ 本文の内容を具体的に示し、読み手の理解を助ける役割
- オ 本文の内容の反論を示し、文中の論点を明確にする役割

--

【説明されている内容と図表との関係を整理する】

問三 清水さんはレポートで紹介するために、この文章の要旨を次の様にまとめました。①～③に入る言葉を本文中から抜き出して、③に入る言葉を後の語群から選んで書きなさい。

【文章の要旨をとらえる】

【清水さんのまとめた要旨】

この説明文は、野球の(①五字)に対する新しい考え方の話から、(②五字)を持ってスポーツを見ることの楽しさを新たに(③)しています。

【語群】
報告
評価
提案
整理
記録
証明



①
-----
-----
②
-----
-----
③

◇清水さんはこの説明文を読んで共感し、そこから自分の考えたことをレポートにまとめました。

問四 本文の内容からまとめたレポートの要旨として最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

【書き手のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをもつ】

- ア 野球はただ点を取ればよいというものではなく、効率的にとる必要がある。
- イ スポーツには様々な要素があり、まだ発見されていない魅力がどこかにある。
- ウ スポーツは自分自身がやるだけでなく、他の人に教えてやらせるもの楽しい。
- エ 野球は得点力や失点を防ぐ力よりも、上手に試合を行うことが大切である。
- オ 他の競技にも野球と似たところがあるから、良いところは取り入れるべきだ。

問五 清水さんは「スポーツの魅力」という自分のテーマにそった説明の文章をもつと読みたいと考えました。次のうち、清水さんのテーマに最も適していると考えられる本のタイトルはどれか。一つ選びなさい。

【関連する説明の文章を探して読む】

- ア 「経営のマニュアル」プロ野球でもうける法則」
- イ 「テニス公式競技規則」
- ウ 「なでしこジャパン」ワールドカップ優勝の戦術」
- エ 「バスケットボール好プレー写真集」
- オ 「勝負師のドラマ」将棋名勝負の舞台裏」



【読む6 自分のテーマにそって説明文を読み、レポートにまとめよう】

問一 (巧) 効率的	(拙) 非効率	問二 エ
問三 ①データ分析	②新しい視点	③提案
	問四 イ	問五 ウ

解説 問一 わからない言葉があったら辞書を引いて調べるようにしましょう。その言葉が抽象的な言葉だった場合は、文章の中では何を指しているかを前後の文脈から考える必要があります。

問二 説明文で図表が使われるのは、主に文章の内容を具体的に説明して読み手の理解を助ける場合になります。特に表やグラフは文章で説明すると長くなってしまいうので、図表を直接示した方が効率的です。

問三 文章全体から筆者の意見を読み取り、筆者が一番言いたいことは何なのかを考えましょう。一つの部分ではなく、文章全体から考えることがポイントです。

問四 文章を読んで自分の意見をまとめるといっても、文章のテーマから離れてしまったのでは意味がありません。筆者の言いたいこと(この場合はスポーツを見るときの新しい視点)をふまえて、自分の意見をまとめるようにしましょう。

問五 テーマにそったキーワードが本のタイトルにあるのがポイントになります。この場合は「スポーツの魅力」「説明文」といったキーワードを手がかりに探します。見当を付けたら実際に本の中身を読んでみましょう。